



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

2018-2019 年度
10月号
NO. 349

〒136-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町コミュニティセンター内 TEL 03-3615-5565

強調月間

EMC-E YES

国際会長：Moon Sang Bong (韓国) 主題「私たちは変えられる」
アジア地域会長：田中博之 (東京多摩みなみ) 主題「アクション」
東日本区理事：宮内友弥 (東京武蔵野多摩) 主題「為せば、成る。」
関東東部部長：衣笠輝夫 (埼玉) 主題「良いものを見つけ・つなげて、よくなる。」
東京ひがしクラブ会長：金丸満雄 主題「楽しもう ワイズ!!」

10月例会(30周年)

と き 2018年10月23日(木)
PM6:30~8:30
ところ 東陽町センター1階 YMCA ホール

受付：鮎澤正和

プログラム

開会点鐘 会長 金丸満雄
ワイズソング/ワイズの信条
開会挨拶 金丸満雄
ゲスト紹介
食前の感謝
今月の誕生日・結婚記念日
ひがしOBとともに30年を語ろう
スマイル/各種報告
閉会の挨拶・点鐘 副会長 飯田歳樹

★今月の誕生日

飯田歳樹君 (16日)

★今月の結婚記念日

奥峪 力・添子 ご夫妻 (7日)
須田哲史・由美子ご夫妻 (8日)

ひがしクラブ 30歳

会長 金丸満雄

ひがしクラブは30歳になりました!!

1988年10月23日、東京YMCA東陽町センターに於いて、東京南クラブとの合同認証状伝達式(チャーターナイト)が行われました。当時の日本区では2クラブの合同チャーターナイトは、歴史に残る画期的なイベントであったようです。ワイズ・YMCA 合わせ273名の出席者に見守られ、ひがしメンバー25名とメネットが一人一人紹介され、全員入会の宣誓を行い認証状が読み上げられ「東京ひがしワイズメンズクラブ」が誕生しました。誕生したクラブの最初の仕事は、1ヶ月後の江東YMCAバザーでした。そこで先輩メンバーからクレープの手ほどきを受け30年、ひがしの特技としてクレープを焼き続けています。

東京ひがしクラブは、東京YMCAが東陽町センターを開設するにあたって、「東に延びるYMCAを支える」を目指し、そしてクラブ運営は「遊び心を忘れず、楽しく」を継承し今年30歳となりました。メンバー数も12名(チャーターメンバー4名)となりましたが、初心を忘れずひがしの粋な気風で、これからもワイズライフを楽しみ、東陽町センターを支援するワイズメンズクラブとして、愉快的仲間とともに活動を続けます。

🛡️ 今月の聖句 🛡️

『わたしたちが持っているこの希望は魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものである。』

—ヘブライへの手紙6章19節—

9月例会

出席者 15名 ネット 名
会員出席数 10名 ゲスト 5名
在籍数 12名 メイキャップ 名
(広義会員2名)

ひがし会員出席率 100%

スマイル

9月 17,500円

累計 17,500円

2018-2019 年度役員

会長 金丸満雄
副会長 飯田歳樹
書記 須田哲史
会計 鮎澤正和
担当主事 沖 利柯

9月例会(13日)は、東陽町センターYMCAホールで開かれた。今月は関東東部部長衣笠輝夫氏の公式訪問です。ひがしクラブ8名、ゲスト5名の出席。

金丸会長のゲスト紹介に続いて関東東部アワーとして部長、各事業主査から以下のようなメッセージをいただいた。

①衣笠輝夫部長

部単位での主体的な活動を推進していく。YMCAのボランティアに対してワイスは何ができるか。自分たちのネットワーク(経験)を使ってYMCAとワイス、ワイズメン同士の繋がりを作っていく。また、部大会にてユースリーダー、学生YMCA、教会ユース、三者のパネルディスカッションを初めて開催する。

②東 裕二主査(地域奉仕・Yサ)

こどもダイニングの活動に多方面からの支援を継続していきたい。

③澁谷弘祐主査(国際交流事業)

IBC・DBCについて具体的にどんな支援をしていくか、マッチングを検討していきたい。

④佐竹 誠主査(ユース事業)

ユースボランティアフォーラムの報告がなされた。参加リーダーのプログラムが進むにつれて変わっていく様子を目の当たりにしてYMCAの青少年育成の在り方を確認出来た。ワイスはきっかけづくり、環境づくりを支援していく。

⑤青木清子主査(メネット事業)

災害支援、国際プロジェクトを通じてワイズメネットをワイスに繋げていきたい。

⑥金丸満雄主査(会員増強事業)

メンバー増強のためのチラシを作成した。増強に向けて休会中、退会者の復活のための活動をしていく。



各種報告では、9月10月は行事が多くありますが頑張りましょう。また、こどもダイニングの活動からYMCAが外部の方とのコンタクトする機会が増えている。との報告があった。終わりにひがしクラブより、チャリティーラン協賛金が贈呈されスマイルのあと閉会となった。

災害スタディー

千代一郎

9月8日(土)13時半から、「2018年災害スタディー」が昨年に続き東陽町センターで開催され、江東区防災課・江東区社会協議会・江東区保健所・江東区教育センター・深川警察署・深川消防団第8分団・東陽町1・2丁目及びゴールドジム等々の関係者39名が参加しました。まず、江東区防災課防災計画係長の今井友明氏より、「江東区の防災対策」というテーマで基調講演をして頂き、①想定される主な災害(地震)②災害に対する心構え③水害(江東区大雨浸水マップ)④江東区の防災対策(避難者対策)⑤日頃の備え等について、具体的な内容を学習しました。講演後4班に分かれて、東陽町センター周辺(東陽1丁目中心)の防災まち歩きが実施さ

れました。約1時間ほどかけて歩きながら、防災・減殺という視点から消火器や消火栓等の位置を重点的に実際確認し、改めて地域の防災状況を再確認する事が出来ました。特に、東陽町周辺地区の海拔ゼロメーターという地形を実際に歩きながら、自分の目で確認出来た事は貴重な経験でした。また、このスタディーは防災に関する知識・技術・テクニックを習得するだけでなく、東陽町地区の色々な立場の多くの方々と知り合い顔見知りになり、ネットワークを作り、日頃の絆を強めていくという観点からも、大変有意義であったと思います。今回の災害スタディー体験を近い将来の災害対応に充分生かしていきたいと考えます。(出席:飯田、沖、金丸、千代)

第32回チャリティーラン

沖 利柯

障がいのある子どもたちを支援する「第32回東京YMCA国際ナショナル・チャリティーラン」を9月23日(日祝)、都立木場公園で開催しました。前日まで続いていた雨もあがり、まぶしい日差しと鮮やかな青空が広がる中で、およそ300人のランナーと伴走者が快走しました。

レース前の「こどもラン」には幼児小学生450人とその保護者あわせ約700人が参加。沿道をうめた応援者、ボランティア・スタッフ約150人を合わせると来場者総数は1,500人を越え、今年もにぎやかな大会となりました。優勝はしのめYMCAこども園の「しのめレッド」チーム。東陽町センターから出場した3チームのうち、最高は深川消防署「ミート君」チームの5位でした。当日は暑い中焼きそばをはじめとする模擬店を担当いただき有難うございました。飯田さんに製作していただいた大型鉄板が大活躍でした!



担当主事 沖 利柯

▼国際協力一斉街頭募金

9月15日、恒例の「国際協力一斉街頭募金」を新宿駅周辺で実施し、各部署から会員、ワイズメン、学生、メンバー、スタッフなど、総勢196名が集まり、街頭で募金協力を呼びかけました。寄せられた213,467円は、バングラデシュYMCAが運営する働く子どもたちの学校で学ぶ児童など、現地の子どものための教育支援に用います。

▼西日本豪雨災害復興支援状況

西日本豪雨災害の被災者支援活動として、広島YMCAが全国YMCAに協力を呼びかけ、8月から9月にかけて5回にわたりワークキャンプが実施されました。東京YMCAからは9月10日~14日にスタッフ2名を、9月24日~28日にスタッフ2名とボランティアリーダー2名を派遣し、家屋の泥出し等の作業を行いました。また、10月27日~28日に実施される被災児童を対象とした「リフレッシュキャンプ」にも、東京YMCAのボランティアリーダー6名とスタッフ1名を派遣する予定です。引き続き全国YMCAが協力して、2,500万円を目標に募金活動を継続しています。現在、東京YMCAには500万円を超える募金が寄せられていますが、10月19日(金)11:30~13:30の2時間、東陽町駅前でも街頭募金を実施いたします。ご協力をお願い致します。

